

水田に発生するアオミドロ対策について

現在、気温の上昇に伴いアオミドロが多発しています。下記のとおりアオミドロ対策をまとめましたので今後の参考にしてください。

1 アオミドロとは

水温が20℃前後で多発する藻類のこと。移植直後に多発すると、水温・地温の低下、苗のなぎ倒し、および肥料養分の収奪などで生育を抑制することがあります。また、除草剤拡散の障害となり、その効果が低減することもあります。



2 アオミドロが多発する条件

- (1) 土中の栄養過多（有機物や窒素、リンが多い場合に多発する）
- (2) 日射量が多い（日光が長く当たることで、光合成量が増加する）
- (3) 温の上昇（アオミドロは特に20℃～25℃で発生が盛んになる）

3 発生が多い場合の対策

- (1) 中干しを行います。「コシヒカリ」の中干し開始適期は茎数330～350本/m²が目安です(45株/坪植え：25～27本/株、54株/坪植え：20～21本/株、60株/坪植え：18～19本/株)。

なお、分けつ数が確保できていない場合には2～3日おきに入水と落水を繰り返します。

- (1) 藻類（アオミドロ）に登録のある除草剤を散布します（表）。なお、晴れている日の朝に散布すると最も効果的です。

表 移植水稻における藻類に登録のある除草剤の一例（令和4年5月20日現在）

農薬名	使用量	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	有効成分(ACN)の総使用回数
モゲトン粒剤	2～3kg/10a	湛水散布	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 (但し、収穫45日前まで)	3回以内	3回以内
モゲトンジャンボ	20個(1kg)/10a	水田に投げ入れる	ウキクサ類、アオミドロ・藻類による 表層はく離の発生時 (但し、収穫45日前まで)		

※ 資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。農薬の安全性評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにともない、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法の変更がされた農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシ等、最新の情報に従って使用してください。最新の情報は農薬の販売店等や茨城県（病害虫防除部）のホームページ等で確認してください。

※ 農薬の登録内容は、令和4年5月20日現在のものです。